

# 急げ、県管理の奥田川護岸工事 答弁II地域の署名簿と共に、さらに県に要望する



岡田 りょうへい 議員

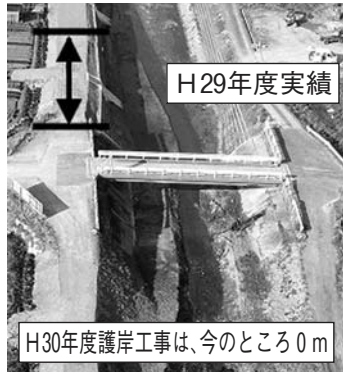
昭和50年台風での237戸の浸水災害を受け、河川改修計画が策定された。その後、4トン・7.5トン・7.5トンの排水ポンプが据えられた一方、河川護岸工事はまだ左岸で約500m・右岸で約800mを残す状態となっており。部分整備では、浸水対策として不完全なのは承知のはずだ。

河川管理をする県では平成25年度から予算が大幅に縮小され、平成29年度の新規河川護岸工事は左岸での29m延長のみで、計画完了のめども立っていない。これでは、避難場所に指定されている伊野南小・中学校も、役割を果たせない。

県への要望を強化し、何としても早期の完了を。

## 水田土木課長

毎年、県議会産業振興土木委員会に、要望書を提出している。今後としては、先日提出のあった「八田地区女性有志153人の署名・要望書」を携え、一日でも早い完了に向け、これまでに以上に県・国に要望活動に取り組む。



## 天王ニュータウン 東口交差点の安全対策を

### 岡田議員

ここ5年で、重傷事故を含む交通事故が15件発生し

ている。最近ではコンビニもでき、さらに複雑な出入りのある交差点となった。安全対策に向けた、十分な対策が必要だ。

## 水田土木課長

天王ニュータウン西口交差点には当初より信号機が設置されていることも踏まえ、県・土佐警察署と現場に行き今後の対応を検討する。

## ふるさと納税で人材育成を

### 岡田議員

現在の使い道は、実に曖昧だ。寄付者に、目的を明確に示す必要がある。

①そこで新たな使い道として、いの町観光協会にすべて譲り出してはどうか。当協会に望まれている、独立採算も可能となる。結果、職員育成にも大いに期待ができる。

②もしくは、積極的にまちづくりを行う有志グループに、すべて譲り出してはどうか。ふるさと納税は、町内有志の返礼品がなければ、ほぼ成り立たない。町

民がお金を集め、町民が使い道を決める。どちらの場合でも、未来の町の担い手の育成となる。

一を植えて	一の収穫があるのは	穀物であり、
一を植えて	十の収穫があるのは	木であり、
一を植えて	百の収穫があるのは	人である。
		(「聖」より)

## 池田町長

①そうなる、使い道が観光分野に限られてしまうので、寄付者の理解を得るための周知が課題だろう。

②若者の交流や賑わいの創出、独身男女の出会いを支援する事業など、より身近で応援したくなる事業への活用を検討したい。

## 森林環境譲与税(仮称)を 山林の地籍調査先行事業に

### 岡田議員

境界が分からなければ、土砂災害の際には復旧もできない。だが、境界確認に必要な地籍調査は多くを残り、所有者の高齢化での現地調査の困難さが課題となっている。

## 野村森林政策課長

対象区域を吟味しつつ条件が整った区域から、森林環境譲与税(仮称)の充当による森林境界の確認作業を開始する。

## 河川の環境改善に向け

### 岡田議員

宇治川や奥田川流域は、人口も多い上に特に流下速度が遅く、生活排水の影響を受けやすくなっている。一方で、野生の水生生物が生きていける水質を維持し、多様性を確保することは最低条件と言えるが、汚水処理との関係をどう考える。

## 尾崎上下水道課長

きれいな水の放流で環境が守られるので、公共下水道・農業集落排水・家庭用合併処理浄化槽の接続率・普及率の向上を図りたい。

## その他の質問

急激な料金アップを回避するために、下水道事業の早期の企業会計化を。

答II国の方針が示されるまで、移行しない。